

平成26年度予算について

経理部経理課

平成26年度予算及び事業計画は、去る3月27日の学園理事会及び評議員会において承認されましたので、その概要をお知らせします。

本学の平成25年度の収支見込みは、3病院を中心とした収支改善の努力により、前年度に引き続き帰属収支差額ベースで黒字となる見通しです。具体的には、帰属収入の約3.85%（帰属収支差額比率）の29億82百万円の黒字が見込まれています。

しかし、平成26年度予算における帰属収支差額は、前年度見込額より大幅に減少し、6億32百万円となる見込みです。この減少の主な要因としては、2年に1度の診療報酬改定が実質マイナス改定となったこと及び消費税の増税により大学負担額が増加すること等が大きく影響していま

す。さらに、40周年記念事業として教育医療棟の建設、教職員・学生寮（2棟目）の建設、附属看護専門学校三郷校の建設、大学病院本館耐震補強工事等の大型事業が継続進行中であり、資金面でも大変厳しくなることが予想されます。

よって、この予算を達成するためには、これまでも増して収支を改善していく努力が必要となりますので、教職員の皆様におかれましては、一人一人が常にコスト意識を持ち、さらなる経費削減の検討・実施にご協力をいただきますようお願いいたします。

予算のポイント、事業計画概要及び消費収支予算・資金収支予算は次の通りです。

■ 予算のポイント

平成26年度予算は、教育・研究・診療の充実とそれを支える財政基盤の確立を基本とし、限りある財源を効率的に配分することを課題として、各分野にバランスのとれた予算配分となるよう配慮しました。

各会計単位の重点施策は次のとおりです。

1) 医科大学関連

(1) 医学部定員

文部科学省は、医師不足に対応するため医学部の定員増を認めることとなり、これを受け平成26年度も入学定員を120名（栃木県地域枠として）で計上しました。

この入学定員増は、国が都道府県における医療課題の解決を図るために策定した地域医療再生計画の一環により図られたものであり、この栃木県地域枠で本学に入学する学生は、栃木県から医師修学資金の貸与を受けることができ、また、卒業後は栃木県職員として県内の公的機関等で一定期間医療に従事することとなります。

(2) 学務関係

医学部では、医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本としたカリキュラム構成となっており、効果的な教育体制を構築するために関係経費を計上しました。主な経費としては、一般的な経費以外に早期体験実習、学生の海外研修、共通試験CBT・OSCEに係る事項や医師国家試験対策としてのビデオ学習の援助、短期集中合宿の開催などがあります。

(3) キャンパスの環境の整備

従来から教育環境の改善としてカリキュラムや講義・実習方法などのソフト面の改善とともに、講義・実習室や周辺環境などのハード面の改修に対し鋭意に取り組んでいます。平成26年度においては、学生に対する良質なアメニティの提供をより推進するため、実習棟実験換気改修工事、コンピューター教室システム導入・更新等の工事を盛り込むこととしました。学生数の増加に対応し、ICTを積極的に活用した教育に利用可能な環境およびCBTを始め様々な状況に対応可能な環境を整えるべく総額3億5百万円を計上しました。

(4) 看護師対策

全国的な看護師不足が広がる中、本学においても看護師確保が困難な状況であり、深刻な問題となっています。平成26年度においても、これまで以上に全学を挙げて積極的に募集活動を行い、大学病院・越谷病院・日光医療センターの7対1看護体制の維持および患者サービスの維持・向上を図ることとしました。

(5) 教職員・学生寮の環境の整備

二期工事の平成26年度支分として17億23百万円を予算計上しました。

(6) 附属看護専門学校三郷校の開設

全国的な看護師不足が広がる中、各病院の7対1看護体制を維持するために、看護師の確保を目的として、平成27年に三郷市に附属看護専門学校を

